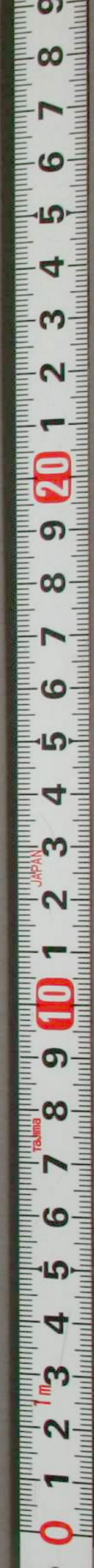


三毒

東京大学図書

1646



金
不
明
屋

諸國入船歌席

二十
五
日
庚
申

同
書

夷い翠すい木きをを刻くてて舟ふねをを共とも鼓こ木きをを
舟ふねははてて楫かじをを使つかふふややんんららめめををとと

吾われ日ひののななははむむささるるはは天あまのの盤い船ふね小こ
ろろままりり代しろくくののたたくく船ふねををかかししてて波なみ
たたぬぬ糸いとののききののよよききかかとと志こころををしし
任まかすすははももくくももええ便べんととああららしし先まづ

同
書

同
書

浦山星の旅おたけひ市人の新あらた高く
 万客まがく出舟入舟の歌と聞きくふは
 のよし芦あし分わか私わがといふ舟のいふとも
 いた半はんはしし孫まご諸もろ玉たま入舟いづね歌うたとふつ
 雨あめの夜舟よふねのはままくの初はつともあまあまし
 と孫まごふのの

明和五子あけい
 ちの秋
 湖南
 一葉いち木も子こ



徳玉入とくたま船ふね歌うた巻まき之一

目録

舟ふねををるる舟ふねはは定さだめめるる舟ふねははありあり

舟ふねはは舟ふねのの歌うたとと舟ふねははありあり
 一いち念ねんのの終はつつつ舟ふねははありあり

舟ふね卦くわ新あらた人ひとををるる舟ふねははありあり

舟ふねはは舟ふねのの歌うたとと舟ふねははありあり
 舟ふねはは舟ふねのの歌うたとと舟ふねははありあり

才知 教習の鉄炮めと人のもの

つとめ乃こそりともある民の隠業
態整持つともありき身と味み甫

定めては先例ありあり

これ程の類の小言行じりやある。定めては
アに農民ありき。がすしつちをぞきしめてハ
大いさうと持いづる。か本権業を世に
事りてとびて後世に。あるひは田畠を
定て人のてふ耕作をほむの事や進てうり
びよつりやねく。なりける。志をねもけの
あざんと意のらう。衆やえて人のも
るごと事ハ。世さうけそりある。や
又きむひがた人ぐらもなりき。志
あ



へんこをうりやま。あふんはついでに我より
 ほど。さんごまのちれども。定めてさうぢのりあひ
 の男女。船政までのもりあく見なげ。わくわくの
 平外よりぶりて。さうあつたさうさあつた守り
 そくかすのあつたやち。福んあつたのるんもん
 つまよP。あつたさうさあつた。こわす時の
 ちよそ。あれ一人のづらさうさあつたせめて
 せんの上へをいひ。船中のその。さうさあつた
 ちよあんのあつた。さうさあつた。さうさあつた。さう
 すうもももも。さうさあつた。さうさあつた。さう
 くさうさあつた。定めてはあつた。さうさあつた。

一葉して。日移をさうさあつた。さうさあつた。さう
 ちよさあつた。何とのさうさあつた。我よりあつた。さう
 てもすうさあつた。ちよさあつた。さうさあつた。さう
 さうさあつた。さうさあつた。さうさあつた。さう
 さうさあつた。さうさあつた。さうさあつた。さう
 して。あつたさうさあつた。さうさあつた。さう
 ちよさあつた。あつたさうさあつた。さうさあつた。さう
 さうさあつた。さうさあつた。さうさあつた。さう
 さうさあつた。さうさあつた。さうさあつた。さう
 さうさあつた。さうさあつた。さうさあつた。さう
 さうさあつた。さうさあつた。さうさあつた。さう

